

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 4 年 5 月 25 日現在

機関番号：14401
 研究種目：基盤研究(B) (一般)
 研究期間：2018～2021
 課題番号：18H00624
 研究課題名(和文) アジア近現代演劇の超域性の研究—クラスター構築と次世代研究者育成の国際共同研究

 研究課題名(英文) Contemporary Asian Transregional Theatre Studies: Networking of regional clusters and theatre researchers in next generation

 研究代表者
 永田 靖 (Nagata, Yasushi)

 大阪大学・文学研究科・教授

 研究者番号：80269969
 交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、研究グループを大きく二つ組織した。東アジアの4つの主要な大学院のグループ、アジアの諸都市で活動する研究者のグループである。前者は年に1度、後者は年に2度の国際会議や研究集会を開催し、アジアの演劇の超域性について議論を深めた。アジアでの演劇は20世紀の政治経済、社会文化の流れと不可分に関わっている。成果の要点は大きく4点である。アジア地域の経済発展による質的变化、伝統演劇の現代化、アジアにおける植民地主義への反省、そして研究期間後半2年間のコロナ禍による演劇交流の極小化である。若手研究者の交流も半数はオンライン会議においてであったが、次年度以降への継続性を確保することができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義
 多様性を本質とするアジアにおいて、現代のグローバル化の中で、それぞれの地域の演劇の固有性と同時に共通点を認識することが、演劇研究の深化にとって重要である。本研究では、その両者に留意し、毎年3回の形式と組織の異なる研究集会を世界中の各地で開催した。各回平均20件前後の研究発表を行い、大規模なものでは60件を超える研究発表を行った。これらはすべて英語によるものであるが、それら論文の演劇研究学術雑誌、芸術研究学術雑誌への寄稿や多数の単著編著の刊行を促した。次世代研究者の育成の面でも、主として東アジアの演劇学大学院生の研究交流を生み出した。

研究成果の概要(英文)：Contemporary Asian theatres have inextricably related with the political, economic, and socio-cultural trends of the 20th century. For this research, two major research groups were organized. The first is a collaboration of doctoral and master courses in theater studies at four major graduate schools in East Asia, and the second is an Asian Theater researchers in Asian cities. The former held an annual international colloquium once a year, and the latter twice a year, to discuss the trans-regionality of Asian theatres. These were largely qualitative changes due to economic development, mutual penetration due to the expansion of information and communication networks, modernization of traditional theatres, and the minimization of theatrical exchange due to the Covid19 disaster in the latter two years of the research period. Although half of the exchanges among young researchers took place at online conferences, we were able to ensure continuity for the next and subsequent years.

研究分野：演劇学

キーワード：アジア演劇 ポストコロニアリズム エコロジー トランスカルチュラルリズム パンデミック

1. 研究開始当初の背景

アジア地域には 25000 以上の劇団が存在し、700～800 もの演劇のジャンルや形式が存在するとされている。それらのアジアの演劇についての関心は近年には高まっているものの、従来の西欧演劇中心であった演劇史観や演劇概念に基づいて研究することが多い。また言語的な障壁も多く、いきおい一国の演劇について焦点を合わせた研究がほとんどである。ポストグローバル化の時代、ポスト植民地主義の時代を迎えている現代において、ますます多様な実践が試みられているアジアの演劇の多様性を総合的に理解する試みはまだごく少数である。また多くの研究は個人研究が多く、特定の領域に限定しているか、また必ずしも新しい演劇研究のアプローチを開拓することについてはあまり関心を示していない。アジアの近代の演劇は多くは西欧の演劇から影響を受けているが、各地域には土着的な演劇も依然として上演されて、総体としてアジアの演劇文化の豊かさを見せるものになっている。しかしそれらの土着的な演劇もアジア域内では類似した内容と形式を持つものが少なくなく、国境を越えてパフォーマーや劇団が移動していたことを意味している。近現代の演劇もインターカルチュラル演劇や地域演劇の取組において、極めて類似した演劇が実践されている。今日アジアでは、移住や移民が活発で人口移動が多く認められる。またシンガポールなどを典型とする多民族的な都市が多数成立しており、多言語による演劇上演も多い。アジアの近現代演劇は、各国別に独自に展開しているというよりは、各都市間の文化接触、政治や商業活動による移住などの人口流動によって国境線を越えて形成されている。この研究はこれらアジアの演劇全般に共通して見られるアジアの超域性を中心に据えて、演劇学・演劇史的観点から再検討し、世界的な視野の中で捉え返す試みである。

2. 研究の目的

近代の演劇学研究の多くは西欧演劇によっていることが多い。劇の構造分析においても、演劇史研究の方法においても西欧の文芸理論や「ナショナル・シアター」史観に基づくことが多い。しかし 20 世紀の演劇は、交通網や情報網の高度な発達、各国の経済的發展などにより国境を越えて接触しあう側面が顕著になった。このことは演劇研究においても大きな課題として認識されてきた。そこで本研究ではそれぞれの国や地域、都市の演劇の歴史や特質を踏まえた上で、アジアの演劇間での接触や影響関係を研究し、その相互関係とアジアの演劇の総体的な特質の把握に努める。例えば、上演様式と興行形式の相互関係、劇団の訓練方法と組織のあり方の関係、作品世界とその劇構造、観客の意識や参加の姿勢などの観点でアジア各国の演劇間の相互関係を明らかにしていく。この研究を通して、アジア域内のアジアの演劇研究者のみならず、広く欧米演劇の研究とも相互に参照させて、西欧演劇に依る演劇学・演劇史の研究を相対化し、アジアの演劇による概念の抽出を目指す。

3. 研究の方法

これらの研究を推進するために、大きく二つの研究組織を組織する。一つは東アジアの主要な演劇学を研究する大学院の連携を基礎とするものである。韓国芸術総合学校演劇院、上海戯劇学院、台北芸術大学戯劇学科、そして大阪大学文学研究科演劇学研究室の 4 校の大学院が共同して学会を開催していく。本研究代表者はその統括を行う。毎年 1 回の国際会議をこの 4 校のうち一校を担当校として開催する。各校 5 件前後の大学院生の研究発表を含む会議を行い、東アジアの演劇状況についての研究交流と若手研究者、大学院生を含む人的交流を促進させる。もう一つは国際演劇学会 International Federation for Theatre Research の傘下で、Asian Theatre Working Group を組織し、年間 2 回の研究集会を開催していく。本研究代表者はその代表を務める。毎年 2 回のうち、1 回は、アジアの諸都市での研究集会行うものとし、その開催地の演劇研究者との交流を含む。もう一回は全世界の諸都市で開催される国際演劇学会年次大会で Asian Theatre Working Group として参加し、研究会を開催するものである。前者は 20 件ほどの研究発表を行う小規模ながらも緻密な議論を行うこととし、時に大規模な国際会議を行う。また後者も各回 15 件ほどの研究発表を行い、アジア演劇に必ずしも関心のない演劇研究者への扉の機能も果たすようにする。

4. 研究成果

予定した研究集会と国際学会は新型コロナウイルス感染が世界的な拡がりを見せた 2020 年 3 月のハノイでの研究集会と同年 7 月のアイルランドでの国際演劇学会での研究会が中止になったのみで、その他の研究会についてはすべて開催することができた。これらの中止になった研究集

会も、それぞれ同年秋と翌年7月にオンラインでの開催を行うことができた。4年間の研究期間の後半2年間はコロナ禍によって影響を受け、後半2年間は調査旅行が不可となり、研究そのものには必ずしも全面的に満足のいくものではなかった。それでも相応の研究成果をあげたものと思われる。東アジアの演劇学専攻の4校の大学院（韓国芸術総合学校演劇院、上海戯劇学院、台北芸術大学戯劇学科、大阪大学文学研究科演劇学研究室）の共同で行う international Asian Theatre conference を次のテーマで毎年開催した。Controversy & Conciliation, 台北芸術大学（2018）Independence & Assimilation, 上海戯劇学院（2019）Theatre at a Critical Point, 大阪大学オンライン（2020）Theatricality and Audience in Contemporary Theatre, 韓国芸術総合学校オンライン（2020）。毎年4大学から平均約20件ほどの研究発表を行い、韓国、中国、台湾、日本の近現代演劇の諸問題について議論を深めた。また国際演劇学会 International Federation for Theatre Research 傘下の Asian Theatre Working Group も基本的には毎年2回の研究集会を以下のテーマで開催した。A) Theatre and Migration: Theatre, Nation and Identity: Between Migration and Stasis, Belgrade, 2018, July. B) Expanding the Boundaries of Theatre, Seoul, 2019, February. C) Theatre, Performance, and Urbanism, Shanghai, 2019, July. D) Asian Theatre and War, (Hanoi, 2020, March. Cancelled) Osaka Online, 2021, January. E) Theatre Ecologies: Environment, Sustainability and Politics, Galway Online, 2021 July. F) Towards a Post-Covid19 Asian Theatres, Manila Online, 2022, March. これらの研究集会では平均15件のそれぞれのテーマでの研究発表を行った。参加者は日本、韓国、中国、台湾、シンガポール、インド、オーストラリア、フィンランド、ブラジル、英国、米国、イランなどの広く世界中からアジアの演劇についての研究発表を行い、活発な議論を交わした。

これらの研究会を通して、様々な知見を得て、広くアジアの演劇の特色を理解することができた。大別すると大きく次の4点に絞られる。アジア地域の経済発展による質的变化、伝統演劇の現代化、植民地主義への反省、コロナ禍での演劇上演である。

まずアジア地域がとりわけ戦後に経済発展を遂げたことは周知の通りであるが、その経済発展がそれぞれの地域の固有の演劇に様々な影響を与え、今日のアジア演劇の側面を形成している。例えば、シンガポールは1960年代の独立以降、飛躍的な経済的発展を遂げた。シンガポールの潮州歌劇という19世紀末に中国潮州地方からの移住者の行う潮州語による歌劇はシンガポールの極めてローカルな演劇ジャンルとして存在した。当初は潮州語話者を観客とした職業的な俳優たちが演じたが、20世紀初頭には潮州話者コミュニティの素人たちの娯楽となり、徐々にその数と規模を大きくしていく。例えば、そのひとつ陶融儒楽社はその有力な劇団であった。これらの劇団は戦後には、映画化の流行の中で上演形態もより簡易なものに、また内容的にもより理解しやすいものに変容した。さらに今日ではシンガポール政府の中国語化政策の中での多様性の発露として、素人劇団は温存、また補助され、シンガポール現代文化のショーケースとなっている。例えば、南華潮劇団は政府補助金を得て、多元的な運営を行い、有数の劇団となっている。その反面、従来の寺社公演や祭日公演を基本とする職業的潮州歌劇団は衰退の傾向にある。これは一つの例に過ぎないが、戦後のアジアの経済発展により、政府による保護が増大すると同時に、従来の興行形態の上演は困窮していく傾向があることは、アジア各地域に見いだせる傾向となっている。

次に伝統演劇が現代化していく傾向にあることも共通する特色である。例えば中国の福建や台湾に広がる梨園戯の伴奏音楽の南管は、独特の旋律と楽器編成で独自の形態である。現代の台湾の劇団や舞踊団がしばしばこの南管音楽を取り入れて作品を創作している。例えば、林文中舞踊団は南管を題材に2作品を制作しているが、それは彼ら若い世代のコンテンポラリー・ダンスが伝統音楽である南管を学習し、吸収していく様を描いている。アジアではこれに限らず、伝統演劇が数多く存在している。しかしその伝統に対する姿勢には大きく二つの傾向があることが理解できる。一つはその伝統の精神を守り、その精神に則って上演を行う傾向。もう一つは、グローバル化の中で、その伝統性を商品化し、世界中に伝播させていくことにより積極的な傾向である。前者がしばしば伝統を継承させるためには必ずしも商業化を望まない一方で、後者は現代化を図るためにしばしば継承された伝統の形や精神には必ずしも拘らない。林文中舞踊団が示す例は、このような現代アジアの伝統演劇の現代化の問題を集約的に示している。

第3には戦後アジアに共通するのは戦争と国家の独立である。いわゆるポスト・コロナ的状況は広くアジア地域を覆うことになるが、そのありようは様々である。アジアの多くの演劇が戦争を扱い、過去の再検討を行おうとしているが、中で一際特徴的なのは日本であり、日本の戦後演劇は戦前の日本の植民地主義に対して演劇的な反省を行ってきたと言える。韓国、シンガポール、中国などの独立と建国に際し、様々な作品で演劇的反省を促している。戦後すぐにはいわゆる復員兵を登場人物とする劇や被爆体験を主題とする劇が多く書かれるが、1960年代の新劇や同時期に勃興する前衛演劇は日本の戦争と植民地主義を反省的に検討する作品が生まれている。アジアへの関心も高まる時期で、日本のアジアへの態度と戦前のそれとを同一化することなく、アジアへの共感を示す二重化された作品が際立っている。それは現代まで続き、大阪を拠点とした劇団維新派の作品はアジアへの架橋を主題とするグローバルな視点で際立っているが、アジアからの日本の植民地主義への視点に対する意識はそれほど強いものではなく、これからの問題を残している。同時にこれらの問題は、日本語とアジア諸語との多言語演劇への関心を高め、言語的に平衡を保つことで融和的であろうとしている点にもアジアの現代演劇の特色が見

て取れる。

最後にはコロナ禍での演劇についてである。これはこの研究が始まった時には想定もしていない問題であった。2020年の2月から世界をパンデミックが覆うことになるが、それはそれまで進展していたグローバリゼーションという交流のあり方を一端宙づりにするには十分の事柄であった。日常生活に多くの制限がかかったことは言うまでもないが、演劇上演もまたそれまでのあり方を根本的に変えるものだった。この後半の2年間に開催した研究会はこのパンデミックの状況の中で演劇がどのように可能か、今後演劇はどのようになるのか、そこに可能性を見出すことに専心した。コロナ禍での演劇上演の可能性について、多くの事例が報告され、また多くの議論が交わされ、また演劇も徐々に再開されてはいるが、この問題については、アジアの特殊性を見いだせるのかどうか、あるいはそもそもそのような問題設定は意味があるのか、引き続き新たな研究課題としてこれからの課題にしたいと思う。

若手研究者のクラスター形成については、残念ながらこの2年間のコロナ禍で満足な成果は得られなかった。しかし、東アジアの4校の大学院生の間でのコミュニケーションは引き続いており、大阪大学への韓国や中国からの留学生、留学希望者は増えており、これらについてもこれからの課題として継続して行きたいと考えている。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計24件（うち査読付論文 7件 / うち国際共著 2件 / うちオープンアクセス 2件）

| | |
|--|------------------------|
| 1. 著者名 小菅隼人 | 4. 巻 36 |
| 2. 論文標題 土方最後の弟子－舞踊家正朔に聞く－ | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 慶應義塾大学日吉紀要H-36：人文科学 | 6. 最初と最後の頁 169, 216 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|----------------------|
| 1. 著者名 小菅隼人 | 4. 巻 72 |
| 2. 論文標題 コロナ時代の演劇について（2） 演劇プロデューサー高萩宏に聞く | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 日本演劇学会紀要：演劇学論集 | 6. 最初と最後の頁 73-104 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 小菅隼人 | 4. 巻 53 |
| 2. 論文標題 北方舞踏派・鈴蘭党研究（1） 舞踏家緒環毘沙（長谷川希誉子）に聞く | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 慶應義塾大学日吉紀要：言語・文化・コミュニケーション | 6. 最初と最後の頁 35-62 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 中尾薫 | 4. 巻 19 |
| 2. 論文標題 十五世観世元章と先祖世阿弥 | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 能と狂言 | 6. 最初と最後の頁 87-99 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 永田靖 | 4. 巻 71 |
| 2. 論文標題 パンデミックの演劇-アントナン・アルトールを忘れよう | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 演劇学論集 | 6. 最初と最後の頁 27,34 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 永田靖 | 4. 巻 10 |
| 2. 論文標題 シンガポールの潮州歌劇 | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 Arts&Media | 6. 最初と最後の頁 253,259 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 小菅隼人 | 4. 巻 35 |
| 2. 論文標題 自然とともに踊る 舞踏家森繁哉に聞くー | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 慶應義塾大学日吉紀要H-35 : 人文科学 | 6. 最初と最後の頁 47, 107 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 小菅隼人 | 4. 巻 1 |
| 2. 論文標題 音楽をもっと大きく : 『リア王』 (The History of King Lear) 第4幕第7場において音楽が挿入される意味について | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 演劇と音楽, 森話社 | 6. 最初と最後の頁 81, 106 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|----------------------|
| 1. 著者名 小菅隼人 | 4. 巻 52 |
| 2. 論文標題 金沢で踊り続ける 舞踏家山本萌・白柳ケイに聞く | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 日吉紀要：言語・文化・コミュニケーション | 6. 最初と最後の頁 55, 92 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 小菅隼人 | 4. 巻 71 |
| 2. 論文標題 コロナ時代の演劇について 演劇プロデューサー細川展裕に聞く | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 演劇学論集：日本演劇学会紀要 | 6. 最初と最後の頁 85, 115 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|----------------------|
| 1. 著者名 小菅隼人 | 4. 巻 1 |
| 2. 論文標題 田舎と都会 ビショップ山田の舞踏人生 | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 中西夏之メモリアル猿橋倉庫 | 6. 最初と最後の頁 21, 29 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|------------------------|
| 1. 著者名 Masae Suzuki | 4. 巻 15 |
| 2. 論文標題 "A Horse, a horse! My kingdom for a horse!": "Horse" as a character in the Japanese and Chinese versions of Richard III | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 京都産業大学総合学術研究所所報 | 6. 最初と最後の頁 163, 173 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|------------------------|
| 1. 著者名 永田靖 | 4. 巻 9 |
| 2. 論文標題 震災後の身体 | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 Arts & Media | 6. 最初と最後の頁 286, 289 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|----------------------|
| 1. 著者名 毛利三彌 | 4. 巻 68 |
| 2. 論文標題 演劇に劇場がなぜ必要なのか | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 演劇学論集 | 6. 最初と最後の頁 21, 34 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.18935/jjstr.68.0_21 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名 2. Kosuge, Hayato | 4. 巻 1 |
| 2. 論文標題 AGAINST STAGING APOCALYPTIC DISASTERS WITH BUTOH DANCE: Ohno Yoshito's Flower and Bird/ Inside and Outside | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 The Routledge Companion to Theatre and Politics | 6. 最初と最後の頁 292-294 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|----------------------|
| 1. 著者名 3. 小菅隼人 | 4. 巻 34 |
| 2. 論文標題 繋がっていること、独りであることー舞踏家上杉満代に聞くー | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 慶應義塾大学日吉紀要:人文科学 | 6. 最初と最後の頁 20, 70 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|--------------------|
| 1. 著者名 小菅隼人 | 4. 巻 51 |
| 2. 論文標題 《復活》と向き合うこと 舞踏家笠井叡に聞く | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 慶應義塾大学日吉紀要：言語・文化・コミュニケーション | 6. 最初と最後の頁 9,38 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|---------------------|
| 1. 著者名 永田靖 | 4. 巻 52 |
| 2. 論文標題 演劇のアジア的転回 - ポスト・グローバリゼーション時代に向けて | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 適塾 | 6. 最初と最後の頁 83,94 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名 永田靖 | 4. 巻 Vol.8 |
| 2. 論文標題 記憶の上演 - 博物館資料を活用する演劇上演 | 5. 発行年 2018年 |
| 3. 雑誌名 Arts and Media, Osaka University, Arts&Media Course | 6. 最初と最後の頁 190-193 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|--------------------|
| 1. 著者名 Mitsuya Mori | 4. 巻 91 |
| 2. 論文標題 Double Nora: A Japanese Intercultural Performance | 5. 発行年 2018年 |
| 3. 雑誌名 UNITAS, Vol. 91, No.2, University Saint Thomas, Manila | 6. 最初と最後の頁 3-16 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 Hayato KOSUGE | 4. 巻 1 |
| 2. 論文標題 Against Staging Apocalyptic Disasters with Butoh Dance: Ohno Yoshito's "Flower and Bird / Inside and Outside" | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 Routledge Companion to Theatre and Politics | 6. 最初と最後の頁 292-294 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 該当する |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 中尾薫 | 4. 巻 1 |
| 2. 論文標題 「夢幻能」という語から能の近代受容史をたどる | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 東アジア古典演劇の伝統と近代 | 6. 最初と最後の頁 157-176 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名 中尾薫 | 4. 巻 1 |
| 2. 論文標題 新作能《オセロ》の間狂言 古典的劇構成からの逸脱をめぐる | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 泉紀子編『新作能オセロ』和泉書院 | 6. 最初と最後の頁 134-146 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|---------------------|
| 1. 著者名 Yasushi Nagata | 4. 巻 1 |
| 2. 論文標題 Crossing the Sea: The Ishinha Theatre Company's Geographical Trail | 5. 発行年 2018年 |
| 3. 雑誌名 Transnational Performance, Identity and Mobility in Asia | 6. 最初と最後の頁 53-67 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 該当する |

〔学会発表〕 計45件（うち招待講演 22件 / うち国際学会 20件）

| |
|--|
| 1. 発表者名 永田靖 |
| 2. 発表標題 日本の田舎を上演するー多言語主義演劇再考 |
| 3. 学会等名 ポズナン&クラクフ日本学専攻科設立35周年記念学会（招待講演）（国際学会） |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|-----------------------------------|
| 1. 発表者名 小菅隼人 |
| 2. 発表標題 対談笠井勲ポスト舞蹈公演『使徒ヨハネを踊る』 |
| 3. 学会等名 笠井勲ポスト舞蹈公演『使徒ヨハネを踊る』 |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 中尾薫 |
| 2. 発表標題 能狂言と感染症 |
| 3. 学会等名 パネル・ディスカッション「日本演劇と感染症 演劇を襲った病と演劇に描かれた病ー日本演劇学会二〇二一年度全国大会」 |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|----------------------------------|
| 1. 発表者名 鈴木雅恵 |
| 2. 発表標題 能法劇団とサミュエル・ベケット@40年 |
| 3. 学会等名 西洋比較演劇研究会2021年度 11月例会 |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 Yasushi Nagaat |
| 2. 発表標題 Message from the Asian Theatre Working Group |
| 3. 学会等名 Asian Theatre Woking Group -IFTR 14th Meeting and International Colloquium/Conference |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 永田靖 |
| 2. 発表標題 チェーホフからソン・ギウンへ |
| 3. 学会等名 リーディング公演『外地の三人姉妹』シンポジウム(招待講演) |
| 4. 発表年 2020年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 Yasushi Nagata |
| 2. 発表標題 Asian Theatre and War Closing Address |
| 3. 学会等名 IFTR Asian Theatre Working Group Online Meeting (国際学会) |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 Yasushi Nagata |
| 2. 発表標題 Theatre at a Critical Point Opening address |
| 3. 学会等名 the 8th international Asian Theatre Studies conference (国際学会) |
| 4. 発表年 2020年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 Yasushi Nagata |
| 2. 発表標題 Urban-development and Burial in "JUNCTION" by the Dojo-Taikutsu (コロナ禍のため学会中止) |
| 3. 学会等名 IFTR Galway Conference (国際学会) |
| 4. 発表年 2020年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 Mitsuya Mori |
| 2. 発表標題 KISHIDA Kunio and KUBO Sakae: The Contrasting Attitudes during Wartime |
| 3. 学会等名 International Federation for Theatre Research Galway Conference (コロナ禍のため中止) (国際学会) |
| 4. 発表年 2020年 |

| |
|-------------------------------|
| 1. 発表者名 小菅隼人 |
| 2. 発表標題 ソコミとサルハシ |
| 3. 学会等名 ホワイトホリゾン芸術祭 (招待講演) |
| 4. 発表年 2020年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 中尾薫 |
| 2. 発表標題 十五世観世元章と先祖世阿弥の伝書 |
| 3. 学会等名 2020年度世阿弥忌セミナー：世阿弥伝書を読む能役者 世阿弥伝書の受容・変容 (招待講演) |
| 4. 発表年 2020年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 中尾薫 |
| 2. 発表標題 能楽と疫病 |
| 3. 学会等名 伝統芸能文化創生プロジェクト シンポジウム&実演「疫病と芸能」(招待講演) |
| 4. 発表年 2020年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 中尾薫 |
| 2. 発表標題 劇作家・森本薫について |
| 3. 学会等名 一般社団法人日本演出家協会主催「日本の戯曲研修セミナー」in大阪2020(招待講演) |
| 4. 発表年 2020年 |

| |
|-----------------------------------|
| 1. 発表者名 鈴木雅恵 |
| 2. 発表標題 近世イングランド文学とユートピア的「島」幻想 |
| 3. 学会等名 日本英文学会第92回全国大会(招待講演) |
| 4. 発表年 2020年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 Masae Suzuki |
| 2. 発表標題 The Transformation of Othello in Noh and Kumiodori: The Intersection of Shakespeare and Classical Japanese and Okinawan Theatre |
| 3. 学会等名 The 4th ASA(Asian Shakespeare Association) Conference(国際学会) |
| 4. 発表年 2020年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 Yasushi Nagata |
| 2. 発表標題 Japanese Dialects Plays or Multilingualism? |
| 3. 学会等名 IFTR Annual Conference in Shanghai Theatre, Performance and Urbanism, (国際学会) |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 Yasushi Nagata |
| 2. 発表標題 Modernization of Asian Theatres Booklaunch |
| 3. 学会等名 IFTR Annual Conference in Shanghai Theatre, Performance and Urbanism, (国際学会) |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|-----------------------------|
| 1. 発表者名 永田靖 |
| 2. 発表標題 シンガポールの社会風土と潮州歌劇 |
| 3. 学会等名 日本演劇学会研究集会 |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 Yasushi Nagata |
| 2. 発表標題 Bridge across Asia |
| 3. 学会等名 Theatre Olympics Forum 'Vultural Bridges in Theatre World' (国際学会) |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|--------------------------------------|
| 1. 発表者名 毛利三彌 |
| 2. 発表標題 近代の矛盾 「人形の家」から「ヘッダ・ガブラー」へ |
| 3. 学会等名 イブセン現代劇連続講演（招待講演） |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 毛利三彌 |
| 2. 発表標題 近代の克服 「棟梁ソルネス」から「私たち死んだものが目覚めたら」へ |
| 3. 学会等名 イブセン現代劇連続講演（招待講演） |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|------------------------------|
| 1. 発表者名 毛利三彌 |
| 2. 発表標題 『野がも』は悲劇か喜劇か |
| 3. 学会等名 イブセン現代劇連続講演（招待講演） |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 Kosuge, Hayato |
| 2. 発表標題 Urbanism and Ruralism in Butoh: the Significance of Yuki Yuko and Her Dance Company, Suzuran-toh |
| 3. 学会等名 IFTR Annual Conference in Shanghai Theatre, Performance and Urbanism, (国際学会) |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 Kosuge, Hayato |
| 2. 発表標題 Performing the Emperor and the War- Heroes in the Context of Deification and Demystification Post- WW2 Tokyo |
| 3. 学会等名 IFTR Annual Conference in Shanghai Theatre, Performance and Urbanism, (国際学会) |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 小菅隼人 |
| 2. 発表標題 再び 自然的身体と象徴的身体 の接続・融合・分離をめぐって |
| 3. 学会等名 日本演劇学会分科会西洋比較演劇研究会 |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 Nakao Kaoru |
| 2. 発表標題 MASQUE THEATER ITS ORIGINS AND CHARACTERISTICS |
| 3. 学会等名 ハイデルベルグ大学ヤパノロジー研究所 (招待講演) |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|--------------------------------------|
| 1. 発表者名 中尾薫 |
| 2. 発表標題 日本の古典劇「能」と中国の宗教劇「儼」 |
| 3. 学会等名 ハイデルベルグ大学ヤパノロジー研究所 (招待講演) |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 中尾薫 |
| 2. 発表標題 夢幻能になったシェイクスピア |
| 3. 学会等名 一般財団法人懐徳堂記念会第138回秋季講座「大阪に息づくシェイクスピア文化」(招待講演) |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|-------------------------------------|
| 1. 発表者名 中尾薫 |
| 2. 発表標題 日本の伝統文化、能狂言に親しむ |
| 3. 学会等名 Handai Asahi 中之島塾 (招待講演) |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 永田靖 |
| 2. 発表標題 中之島における野外演劇の可能性 |
| 3. 学会等名 文化庁戦略的芸術文化創造推進事業クリエイティブ・ラボ中之島 (招待講演) |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 Yasushi Nagata |
| 2. 発表標題 Expanding or going beyond the boundaries of theatre |
| 3. 学会等名 IFTR Asian Theatre WG Seoul Colloquium (国際学会) |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 永田靖 |
| 2. 発表標題 演劇のアジア的転回 ポスト・グローバリゼーションの時代に向けて |
| 3. 学会等名 適塾記念講演会(招待講演) |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 Yasushi Nagata |
| 2. 発表標題 Nose Ningyo Joruri: its challenge and dilemma |
| 3. 学会等名 The 2nd Asian Theatre Summit, Asian Theatre Association (招待講演) (国際学会) |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 Yasushi Nagata |
| 2. 発表標題 Representation of 'Machuria' in Japanese Post-War Plays |
| 3. 学会等名 IFTR Belgrade Congress, Theatre and Migration: Theatre, nation and Identity, (国際学会) |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 Mitsuya Mori |
| 2. 発表標題 Who is the Enemy of Society?: Seeing Ibsen's An Enemy of the People in Japanese Perspective |
| 3. 学会等名 International Ibsen Conference (招待講演) (国際学会) |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 Mitsuya Mori and Yasushi Nagata |
| 2. 発表標題 Duologue: Expanding or Going beyond the Boundaries of Theatre |
| 3. 学会等名 Seoul Colloquium, IFTR Asian Theatre Working Group (国際学会) |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|------------------------------|
| 1. 発表者名 毛利三彌 |
| 2. 発表標題 演劇に劇場がなぜ必要なのか |
| 3. 学会等名 日本演劇学会研究集会 (招待講演) |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|------------------------------|
| 1. 発表者名 永田靖 |
| 2. 発表標題 討論演劇に劇場は必要か |
| 3. 学会等名 日本演劇学会研究集会 (招待講演) |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 Hayato KOSUGE |
| 2. 発表標題 Migrating/Migrated Bodies in Japanese Context |
| 3. 学会等名 IFTR Belgrade Congress, Theatre and Migration: Theatre, nation and Identity, (国際学会) |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 小菅隼人 |
| 2. 発表標題 演劇にみる《王の二つの身体》 軍神, 天皇, Kaiserin 問題の所在 |
| 3. 学会等名 日本演劇学会分科会西洋比較演劇研究会例会 |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 中尾薫 |
| 2. 発表標題 朝日会館における能楽上演の意味 |
| 3. 学会等名 朝日会館・会館芸術研究会主催・「朝日会館と京阪神モダニズム-戦後・戦中・戦後-」 |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 Kaoru Nakao |
| 2. 発表標題 " The Style of Noh Performance and the Theory of the Samurai: How shikigaku (ceremonial music) and bukekojitsu (Japanese ancient practice of military etiquette) influenced Noh performance |
| 3. 学会等名 Creation, Preservation, and Transformation of Theatre Traditions: East and West (招待講演) (国際学会) |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 Kaoru Nakao |
| 2. 発表標題 Off, off, you landings Come. Unbutton here: The divestment of authority and the cultivation of hope in Makoto Sato 's reincarnation of Lear with Mugen Noh elements, |
| 3. 学会等名 IFTR Asian Theatre Working Group Meeting (国際学会) |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 Masae Suzuki |
| 2. 発表標題 The Reception of Shakespeare in Japan |
| 3. 学会等名 武漢劇院主催交流会（招待講演）（国際学会） |
| 4. 発表年 2018年 |

〔図書〕 計13件

| | |
|---------------------------------|-----------------|
| 1. 著者名 永田靖他4名 | 4. 発行年 2021年 |
| 2. 出版社 社会評論社 | 5. 総ページ数 344 |
| 3. 書名 島村抱月の世界—ヨーロッパ・文芸協会・芸術座 | |

| | |
|----------------------------|-----------------|
| 1. 著者名 永田靖他 | 4. 発行年 2021年 |
| 2. 出版社 大阪大学出版会 | 5. 総ページ数 118 |
| 3. 書名 EXP070大阪万博の記憶とアート | |

| | |
|--------------------------|-----------------|
| 1. 著者名 毛利三彌 | 4. 発行年 2022年 |
| 2. 出版社 論創社 | 5. 総ページ数 142 |
| 3. 書名 ストリンドベリ『令嬢ジュリー』 | |

| | |
|-----------------------------|-----------------|
| 1. 著者名 永田靖 | 4. 発行年 2020年 |
| 2. 出版社 大阪大学出版会 | 5. 総ページ数 483 |
| 3. 書名 漂流の演劇 維新派のパースペクティブ | |

| | |
|----------------------|-----------------|
| 1. 著者名 毛利三彌 | 4. 発行年 2020年 |
| 2. 出版社 論創社 | 5. 総ページ数 194 |
| 3. 書名 イブセン 『人形の家』 | |

| | |
|--------------------------|-----------------|
| 1. 著者名 毛利三彌 | 4. 発行年 2020年 |
| 2. 出版社 論創社 | 5. 総ページ数 212 |
| 3. 書名 イブセン 『ヘッダ・ガブラー』 | |

| | |
|---|-----------------|
| 1. 著者名 小菅隼人 | 4. 発行年 2020年 |
| 2. 出版社 慶應義塾大学アート・センター | 5. 総ページ数 185 |
| 3. 書名 慶應義塾大学アート・センター / Booklet 28 象徴と実在の間 : Royal Bodies | |

| | |
|--|-----------------|
| 1. 著者名 Yasushi Nagata | 4. 発行年 2019年 |
| 2. 出版社 Springer | 5. 総ページ数 262 |
| 3. 書名 Modernization of Asian Theatres Process and Tradition | |

| | |
|----------------------------|---------------------|
| 1. 著者名 永田靖 | 4. 発行年 2019年 |
| 2. 出版社 論創社 | 5. 総ページ数 632,686 |
| 3. 書名 ベスト・ブレイズ2 『三人の姉妹』 | |

| | |
|--------------------------|---------------------|
| 1. 著者名 小菅隼人 | 4. 発行年 2019年 |
| 2. 出版社 論創社 | 5. 総ページ数 143-217 |
| 3. 書名 ベスト・ブレイズ2 『リア王』 | |

| | |
|---|-----------------|
| 1. 著者名 Yasushi Nagata and others | 4. 発行年 2018年 |
| 2. 出版社 Palgrave Macmillan | 5. 総ページ数 164 |
| 3. 書名 Transnational Performance, Identity and Mobility in Asia | |

| | |
|-------------------------|-----------------|
| 1. 著者名 毛利三彌他 | 4. 発行年 2019年 |
| 2. 出版社 勉誠出版 | 5. 総ページ数 258 |
| 3. 書名 東アジア古典演劇の伝統と近代 | |

| | |
|-----------------|-----------------|
| 1. 著者名 鈴木雅恵他 | 4. 発行年 2019年 |
| 2. 出版社 和泉書房 | 5. 総ページ数 197 |
| 3. 書名 新作能オセロ | |

〔産業財産権〕

〔その他〕

| |
|--|
| <p>Asian Theatre Working Group https://asiantheatrewg.org https://iatsc.org international Asian Theatre Studies conference</p> |
|--|

6. 研究組織

| | 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|-------|---|---------------------------------------|----|
| 研究分担者 | 毛利 三彌 (Mori Mitsuya) (10054503) | 成城大学・文芸学部・名誉教授 (32630) | |

6. 研究組織（つづき）

| | 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|-------|--|-----------------------------------|----|
| 研究分担者 | 中尾 薫 (Nakao Kaoru) (30546247) | 大阪大学・文学研究科・准教授 (14401) | |
| 研究分担者 | 小菅 隼人 (Kosuge Hayato) (40248993) | 慶應義塾大学・理工学部(日吉)・教授 (32612) | |
| 研究分担者 | 横田 洋 (Yokoto Hiroshi) (50513115) | 大阪大学・総合学術博物館・助教 (14401) | |
| 研究分担者 | 鈴木 雅恵 (Suzuki Masae) (70268291) | 京都産業大学・外国語学部・教授 (34304) | |

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計10件

| | |
|--|--------------------|
| 国際研究集会 IFTR Asian Theatre Working Group Meeting Galway | 開催年 2021年～2021年 |
| 国際研究集会 International Asian Theatre Studies Conference | 開催年 2021年～2021年 |
| 国際研究集会 Asian Theatre Working Group of the International Federation for Theatre Research OnLine Meeting and Conference 2022 | 開催年 2022年～2022年 |
| 国際研究集会 international Asian Theatre studies conference 2020 Theatre at a critical point | 開催年 2020年～2020年 |
| 国際研究集会 Asian Theatre Working Group On Line Meeting, Asian Theatre and War | 開催年 2021年～2021年 |
| 国際研究集会 Asian Theatre Working Group IFTR Shangahi Conference meeting | 開催年 2019年～2019年 |
| 国際研究集会 the 7th international Asian Theatre Studies conference | 開催年 2019年～2019年 |

| | |
|--|--------------------|
| 国際研究集会 IFTR Asian Theatre Working Group Belgrade Meeting, "Migration and Theatre" | 開催年 2018年～2018年 |
| 国際研究集会 The 6th International Theatre Studies Conference " | 開催年 2018年～2018年 |
| 国際研究集会 IFTR Asian Theatre Working Group Seoul Meeting | 開催年 2019年～2019年 |

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 |
|---------|---------|
|---------|---------|